



# 館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 5 月 29 日 (木)

発行 館長 加藤 智 一

## サクランボ異聞 探してみよう！ソメイヨシノにサクランボ



桜の実（果実）がサクランボだとするならば、お花見で見ることの多いソメイヨシノにもサクランボは実るのでしょうか。桜はバラ科サクラ属で、サクランボもバラ科サクラ属です。しかし桜には観賞用の桜と果実のための桜があってソメイヨシノは観賞用の桜です。さくらんぼのできる桜は実桜（みざくら）といい、観賞用の桜とは違って実を収穫するための桜です。

サクランボは別名「桜桃」ともいい、東洋系とヨーロッパ系を合わせると 1000 種類以上あるといわれています。今でも世界中で品種改良が進められています。日本で栽培されているさくらんぼはヨーロッパ系が多く、よく知られている「佐藤錦」も日持ちは良いけれど酸味の強いヨーロッパ生まれの「ナポレオン」に、味は良いけれど日持ちのしない「黄玉」を交配させてできたものです。

サクランボの名前の由来は、「桜の子ども」という意味で「桜の坊」と呼ばれていました。そのうち桜の坊の「の」が「ん」に変化し、「坊」が短母音化してサクランボになったとされています。

ソメイヨシノは花を観賞する桜で基本的には実できません。桜は S 遺伝子型がオス（花粉）とメス（雌しべ）で全く同じ組み合わせの場合、受粉しても受精に至らず種子が実らない「自家不和合性」という自身の花粉で受粉させても実を着けにくい性質があります。ヤマザクラなどは遺伝子型がいくつもあるため、野生種の子孫同士でも遺伝子型が

異なれば受精し実をつけます。しかしソメイヨシノはクローン桜なので遺伝子型がどれも一緒なため実を着けることができません。

しかし、稀にソメイヨシノにさくらんぼができることがあります。なぜ?? サクランボができるはずがないソメイヨシノですが、近くにソメイヨシノ以外の桜の木があった場合、その桜の花粉と受粉してサクランボができることがあります。しかしこの実は、小さくて苦みがあり、食べても美味しくありません。このようにソメイヨシノの木になってしまったサクランボは、純粋なソメイヨシノのさくらんぼではありません。ソメイヨシノとソメイヨシノ以外の桜でできた交雑種のサクランボと言うのが正確なところですね。ですから逆に、ソメイヨシノの花粉が別の桜に付いて受粉させることもあるわけですので、もしソメイヨシノとその近くにソメイヨシノ以外の桜が咲くような場所があれば、サクランボが出来ている可能性もありますので、花が散り葉桜になった頃に探してみてもいいかもしれません。

ところで、「館長だより第 225 号」でご紹介したように、1875 年（明治 8 年）、当時の県庁敷地に果樹の苗木が植えられて今年で 150 年になります。2025. 5. 26 山形新聞「ZOOM けんぱく」によれば、現在食べられているサクランボの多くは「セイヨウミザクラ」という種類で、漢字で「桜桃」と書きます。

「セイヨウミザクラ」が日本に伝わったのは明治時代。ところが、江戸時代にすでに「和漢三才図説」という百科事典に「桜桃」という名は登場しており、それによると、葉は丸く、縁にギザギザが着いていることや、果物の中で早い時期に実を結ぶこと、子どもが食べ過ぎると熱を出すことが紹介されています。しかしこれは、「ユスラウメ」という良く似た別物なのです。日本全国で見ることができ、サクランボより少し酸っぱいらしい。

